

第2日目

10月19日(日) 晴れ

文・浜道 写真・後藤

起床5:00-鳳凰小屋発7:02-五色の滝7:38-白糸の滝8:10-小武川第三砂防堰堤

10:47-青木鉱泉11:11-武川の湯12:00~14:45-下土狩16:30

標高差 上り なし

下り 鳳凰小屋約2382m~青木鉱泉約1100m=約1282m

当初の山行計画が変更になり、今日はドンドコ沢だけを下山する行動だけになり、心にゆとりがあった。宿泊した小屋別館は思ったほど寒くはなく、(Lの話だと、今回は本館の特に階段周辺はドアがなく吹上が寒かったらしい)手袋とニット帽をかぶらず、ダウンウェアとウインドストッパーシェルを着たまま寝てしまった。

シュラフカバーを用意していったが使わないで済んだ。山小屋の朝は早い。しかし、小屋泊まりの朝食時間が6時と遅かった為、余裕の山小屋の朝を堪能できた。

若手のTさんは日の出を見に行ったそうだ。彼の調査によると日の出5時55分らしい。彼は氷点下の鳳凰小屋テント場を4時過ぎに観音岳を出発して、5時過ぎには観音岳で白々してきた空に浮かぶ富士山を遠くに眺めながら日の出を待ったそうだ。予定時刻に近くご来光を仰ぎ、生命の力の源の太陽が遠くの山々を映し出し、八ヶ岳連峰、南北アルプス、9月27日に噴火した御嶽山の噴煙を目にすることが出来たという。

冷たい朝に益々パワーを貰って彼は小屋まで下りてきた。その間のんびりと、小屋泊組がご飯と大根の味噌汁と漬物、つくだ煮5種の朝食を済ませ、出発準備を始めていたら、テント泊のCLから「食事は終わったか?終わったらすぐに出発!」という電話をもらい、今まで経験したことないゆったりしたつかの間のひと時が急に火が付くような忙しさに変貌した。

7時2分 鳳凰小屋を後にCL、K辺、H道が観音岳下山直後のTさんより一足先にドンドコ沢に向かって下山開始。天気は快晴。水場の水はゴンゴンと流れて、小屋の外のデッキは凍っていて滑る。落ち葉にはうっすらと霜が降りている。冷たい空気が張りつめていて清々しくて気持ちが良い。太陽が眩しい。朝の太陽は紅葉した木々を照らし出しより鮮やかな赤や黄の葉を見ることが出来た。

10分程下ったところで、白砂の山肌の地蔵岳を背中にお別れの記念写真を撮り、樹林帯を進む。下山開始から20分たった頃、Tさんが先発隊に追いつく。20kg近い荷物を背負いながら凄い。ドンドコ沢の見どころはいくつかの滝だ。

上から標高2160m地点 五色滝(ゴシキタキ)、落差70m。登山道から近い。

次が標高2000m付近 白糸の滝、落差30m。登山道から近い。

次が標高1700m付近 鳳凰の滝、左右にある。落差50m。登山道から200m入る。道が荒れている。

訪れなかったが 標高1600m付近 南精進ヶ滝 落差50m と立派な滝がある。

メンバーの意見は五色滝が一番見応えがあったので一致した。しかし、標高の高い所であれだけの水量を放出できる自然の力は恐ろしいとつくづく思った。沢の流れる音が心地良い反面、水による甚大な被害もこの登山道に沢山残っている。流木やら、大きな岩が道に残されていたり、木の根っこが露出してしまったりで、歩き難い道だ。

足への負担は大きい。それにしても中道登山道と比べ長い。本当に飽きてしまう。歩き始めて3



煙たなびく鳳凰小屋
イイ感じ！！



テン場



鳳凰小屋下



富士山遠望



五色の滝



時間 20 分。やっと、穏やかな道になった。するとドンドコ沢登山道の標識。ドンドコ沢というのは「子を授かる為」にドンドコドンドコと太鼓を叩いて上ったとのことだが、ドンドコドンドコと歩き難い厳しい道だ。

CLは昨日体調不良で下山したKさんの Husband と待ち合わせる為、何度も携帯を掛けるが圏外の為なかなか通じない。やっと、小武川流域工事現場の事務所付近で打ち合わせることが出来た。CLの予定は前日車を駐車した中道登山道入口で落ち合うつもりのようなようだった。そうすると、ドンドコ沢登山道から、中道登山道に抜ける道がなくてはならないのだが、それがどうしても見つからないと言っていた。どんどん青木鉱泉に近づいて行く。CLはSLのTさんのGPSと地図とで協議を続けていた。目の前にあるのは、砂防堰堤が3カ所。川を渡る手段は無し。結局、青木鉱泉に限りなく近いので、そこに来てもらうように連絡した。

小武川流域工事は大々的な工事だ。「登山者はこちらへ」の標識に沿って仮橋で対岸に渡る。10分程で青木鉱泉に到着。K夫妻が丁度到着して、落ち合うことが出来た。

当初の予定と逆回りになり、CLはこちらの方が、歩きやすいと思うとの見解でした。私はよく分かりませんが、一日目に厳しい方が気持ちも楽で良かったかなと思います。天気も良くて、最高の山行になりました。CLのGさんの不調だった膝も問題なく、SLのTさんのオベリスク登攀を見ることが出来、ゲストのK辺さんも楽しんで頂けました。今回参加出来なかった我が会のメンバーとまた紅葉を楽しみに訪れたいと思う次第です。皆さんに感謝です。



元気な某大学生の皆さん



青木鉱泉

その他の記述（L後藤）

1. 鳳凰小屋は、まだ古の雰囲気を残す素敵な小屋。ただ、前回いた主人がいなくて残念だった。
2. 今回は前回ほど寒くなく、外のホース水道は朝、凍っていなかった。
3. テン場は狭いので16時ころ到着者は張るところがなく大変だった。我が隊は、3名地蔵岳アタック時、私が先行し場所取りをした。かなりいい場所をゲットし正解だった。テント代一人800円。
4. テン場には学生さんが多かった。中に「全員、革靴」のW大グループがいた。
5. トイレが改築され洋式で綺麗になった。「目に匂いが来ないので??!!」良かった。
6. ビアは600円、日本酒1合500円。5000円くらいやってしまった。(笑い)
7. テン場に、若い山ガール二名、熟年の女性が一人テン泊していた。世の中変わった??!!
8. 翌日の計画を聞いたら、夜叉神峠と広河原が半々だった。広河原が近いとのこと。
9. 夕食後、小屋泊の二人が表敬訪問。ゲストのKさん、いたくテントが気に入ったようです。(笑い)
10. ドンドコ沢登山道は一部崩壊して歩き難い。話では御座石鉱泉道のほう上り下り易いとか。
11. ドンドコ登山道から中道登山口へのトラバースは結局、標高約1250m下の大堰堤を通過するようだ。今回は水量が多く無理と感じた。使う場合、ルート研究が必要だ。
12. 個人的には膝の故障でテン泊はやや心配だったが、結果的には特に問題なかった。ストックが有効なのかどうか分からない。ただ、温泉マッサージのケアは良さそうだ。むしろ、今朝は両太ももが軽い筋肉痛でした。(笑い)
13. 今回は残念ながら二名リタイヤでした。普段のハイキングで、なるべく荷物は背負い、体幹づくりをお勧めします。皆さまは、全体的には良く歩きました。ご苦労様でした。

以上

